

平成 26 年救急報告

26 年中の松前消防署管轄内の救急件数をまとめました。

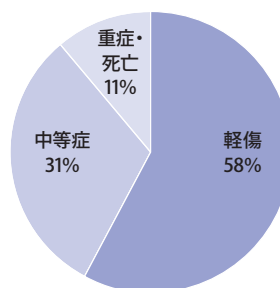
◆救急出動 1,325 件

救急出動件数は1,325件で、前年より14件減少していますが、5年前に比べると40件近く増加しています。これを救急搬送人員(1,227人)で見ると、軽症708人(全体比58%)、中等症379人(全体比31%)、重症・死亡140人(全体比11%)でした。

1日平均で3～4件救急出動を行う中で、軽症の割合が60%近くとなっています。救急車は、けがや急病などで緊急に病院へ搬送しなければならない人のためにあります。なぜなら、時間の経過により救命のチャンスは低下するからです。右のグラフを見ると、そばに居合わせた人が救命処置を早く行うほど助かる可能性が高くなることが分かります。

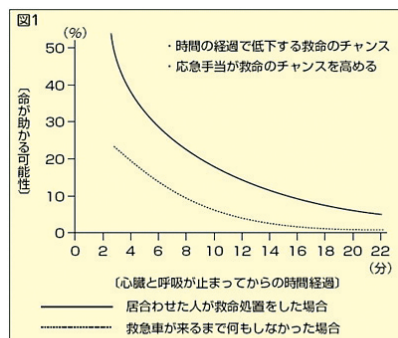
緊急でないのに救急車を要請すると、本当に救急車を必要とする事故が発生した場合に遠くの救急車が出動しなければならず、到着が遅れて救える命が救えなくなる恐れがあります。緊急性がなく自分で病院に行ける場合は、救急車以外の公共交通機関などを利用してください。急いで病院に連れて行ったほうがよいと思ったときには、迷わず119番通報してください。

26 年中の緊急搬送者傷病程度の内訳



軽 傷…入院加療を必要としないもの
 中等症…入院を必要とするもので重症に至らないもの
 重 症…3週間以上の入院加療を必要とするもの
 死 亡…診察時に死亡が確認されたもの

応急手当と救命曲線



Holmberg M et al. Effect of bystander cardiopulmonary resuscitation in out-of-hospital cardiac arrest patients in Sweden. Resuscitation 47:59-70, 2000. より、一部改変して引用

◆実行しよう 愛救 143 運動

愛救 143 運動は、愛媛の救急医療を守るため、143 万の県民の皆さんに、医療機関や救急車の適切な利用を心掛けてもらう取り組みです。

①普段からの心掛け

何でも相談できる「かかりつけ医」をつくって、早めの受診を心掛けるほか、健康診断などを積極的に受け、病気の予防や早期発見に努めましょう。

病気やけがに備えて、薬を常備しましょう。

②医療機関を受診するときは

できる限り診療体制が整っている通常の診療時間内に受診しましょう。休日や夜間で比較的症状の軽い人は、えひめ医療情報ネット (<http://www.qq.pref.ehime.jp/>) や消防署病院案内 (☎ 982-5959) を利用し、夜間急患センターや休日在宅当番医にかかりましょう。

③子どもが急な病気やけがで心配なとき

小児救急医療電話相談 (＃ 8000) に電話しましょう。